



納涼盆踊り大会

8月7日（日）町田駅前カリヨン広場



8月7日（日）、地元の町内会「六生会」主催の盆踊り大会へ参加しました。今年も暑い夏の夜でした！今年度も、おかげさまで、総勢33名の参加がありました。（中国人8名、フィリピン人4名、ドイツ人1名、メキシコ人1名、日本人5名、スタッフ14名）

夕方、センターに集まり、ボランティアの皆様には浴衣を着付けて頂きました。日本に長く住んでいても、浴衣は初めて！と言って、喜ぶ参加者も。

六生会様が、本番前には時間を割いて、簡単な踊りをご指導くださいました。参加者は疲れも見せず、本番の複雑な振りの曲にもチャレンジ！盆踊りを見事にマスターしました。参加者の笑顔で、暑さを忘れる事が出来ました。

毎年ご協力頂いている六生会の皆様には感謝いたします。また、きめ細かい心遣いで、支えて下さる事務局の皆様と、活動を心から楽しんで協力して下さった交流部会の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

国際交流部会 藤原 月子



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで（詳細▶7面）



KOKUSAI インタビュー

日本語教室部会 部会長 勝又 秀明

町田国際交流センターでボランティア活動をされている方に、お話を伺いました。

■いつからボランティアをはじめられましたか？

2009年3月からです。初めの一か月は先輩についての見習いだったので、4月からでしょうか。

■ボランティアをはじめたきっかけはなんですか？

定年退職のあと、第二次就職からシルバー人材センターでの仕事等をしていましたが、その後そろそろ社会にお返しできることはないかと思っていました。そんな折、「広報まちだ」で「外国人に『日本語学習支援をする』ボランティアの基礎講座」というのを知り、申し込みました。

■今の活動状況を教えてください？

毎週金曜日の午前中（10:00～11:30）に、日本語教室に来ていただく外国人の方と、日本語を使つてのコミュニケーションを楽しんでいます。

■活動の中で大切にしていることはなんですか？

学習者の皆さんが、得意な言葉（自国語）ではなんでも表現できる社会人であるということでしょうか。お話しの中で、うまく言えなくて時間がかかったりするようなことがまれにあります。急がなくて良いと待つ様にしています。そうすると、いろいろなことを話していただけます。

■楽しかったこと、うれしかったこと、つらかったこと など

仕事勤め時代は、多忙で海外に出かける機会が無かったのですが、ボランティア活動を通じて様々な国の方とお話しが出来、一生懸命にお話しいただくお国のお話を通じて、海外滞在のような体験をしています。

そんな中で、成瀬まつりのときに、子供会の焼き鳥のブースに見慣れた学習者がいて、他の方と一緒に焼く焼いているのを見たときは、とても感激しました。つらかったこと…忘れしました！…イヤ、無かったのではないかと思います。

■ボランティア活動を始めてご自身の変化などありますか？どんな点？

街で外国の人を見かけたとき、前は、話しかけられても困ると何となく避けていたと思いますが、それが無くなりました。今では、こちらから声をかけたほうが良いのかと、迷うようです。

■これから活動を始めようとしている方へ一言お願いします。

仕事が見つかって教室を辞めた近所に住むフィリピン人やメキシコ人、動かないスクーターの修理をしたら分かったお向かいのベトナム人の奥さん、よく車を洗っているきつとドイツ人などと、道沿いでの立ち話を楽しんでいます。気がつくと意外に多い近くの外国人、日本語教室をきっかけに身近な世間話の輪・井戸端会議の輪を広げましょう。



町田国際交流センターの日本語教室では、様々な国の方が 日本語学習に取り組んでいます。

今回は、学習者の孟さんにお伺いした、日本語学習法を紹介します。

私の日本語学習方法

孟 文玲 (中国)

勉強と言えば、それぞれ違います。私の日本語学習方法は、まず、興味を通して学びます。日本に来たばかりの時、いろいろな困難がだぶって、本当に焦っていました。おしゃべりが大好きな私は日本に来てから急に話すのができなくなり、とても寂しかったです。友達が全くいないし、テレビやラジオなど電機製品を使うのが下手だし、主人とのコミュニケーションもうまくいかなかったので、お先真っ暗でした。困難を超えたい！困難を超えたい気持ちが膨らんできました。ある日、出来上がったご飯がべとべとになったり、魚を真っ黒に焦がしてしまったり、主人に怒られてしまいました。そのとき、私はかなり落ち込んでいました。これからどうしましょうか・・・？立ち上がりたい！なんとかしなければと思いました。よし！日本料理の基本からまじめにやってみようと考えました。初めに挑戦したのは豆腐とワカメの味噌汁でした。その時は、日本語のレベルが低かったのでよくわからないので絵の本を見ながら作りましたが、うまくいきませんでした。おいしく作れるようにテレビでおばあさんの料理をみました。おかげで、味噌汁の作り方がはっきりわかりました。それからお料理番組と本を照らし合わせながらお料理を一つ一つ作ってみました。今では日本料理がだいたい毎日食卓に出るようになりました。私はお料理の興味を通して日本語を覚えています。それは私の日本語の学習方法の一つです。

続きまして、二つ目は考えた言葉を相手に伝えることです。新聞やテレビの話題から興味のあることを話します。例えば、中国の人が日本に来て爆買をすることです。なにを買っているのかとか、化粧品はどこの会社の何が良いのか、わたしもそれを見て顔パックを買いに行きましたが売り切れでした。そのような共通の話題で少しずつ話ができるようになりました。興味から日本語の勉強がし易いし、たくさんの会話が自然に弾んできます。

三つ目は読むことです。子供の絵本は日常生活によく使う言葉なので、私はよく図書館から絵本を借りて、娘に読み聞かせをしていました。読むのがたどたどしくても頑張って何年間続けています。けれども、最近、娘から笑われて「こう言うといいよ」と、いつも直してくれます。小学生新聞とか雑誌とか読めるようになっていますが、すらすらまでのレベルには程遠く、娘のほうが早く覚えられ、私は教えられています。日本語の難しいところは動詞の変化だと思います。五十音の順番を覚えるのはよく間違えますので、「日本語の五十音歌」で覚えました。歌は学習の良い方法です。

四つ目は自分を日本語の環境に置くことです。日本語を聞き取るまでは、時間がとてもかかりました。私は最初テレビを見て内容を理解して、それから子供向けの「おかあさんといっしょ」の番組をみました。その時、気が付いたのは擬音の言葉でした。猫「にゃーにゃー」、犬「わんわん」、豚「ぶーぶー」、牛「もーもー」、馬「ばかばか」。日本語と中国語と似ているところがあるので、日本語の勉強がもっと面白くなりました。けれども、文化の違いで理解できないところが沢山あるので、分からない所はすぐに「何で」「どうして？」と聞くことが一番大事だと思います。話す時、「が」とか「を」とか助詞を使わなくてもお互い表情を見れば意味がだいたい分かりますが、日本語をもっと上手になりたいので、書くのは絶対に必要な事と思います。

今年、私の目標は毎週一つ日記を書くことです。これからも、いろいろな人と流暢に話せるように新しい言葉を覚えたいと思います。



お祭りに参加する孟さんとお嬢さん

子ども教室では車イス体験学習を行い、子ども10名、ボランティア21名が参加しました。

まず、町田ハンディキャップ友の会の井上さんから車イスの開き方、閉じ方、ブレーキや足置きの安全な使い方などについてお話を伺った後、段差やスロープでの注意点を確認しながらフォーラムの建物を一周しました。車イスに座った時の目線の低さや、車イスを傾けられることの怖さも味わったことで、解除する上で気をつけなくてはいけないことが、よくわかったのではないかと思います。

こども教室ボランティア 佐藤 弘子

先週、車椅子を教室と外とで実際に押したり、乗ったりしました。

教室では、車椅子の操作が簡単で軽そうに見えました。実際に座ってみたらそうではありません。視線が低く怖かったです。外ではもっと怖かったです。教室があるビルから出て、ビルを一周しました。歩道は教室のように平らではなく、段差がありました。また、曲がり角、坂、人通りがあり、実際、車椅子を体験してみると、とても危険です。車椅子では、町の中は沢山の危険があることがわかりました。

これから、私は車椅子の人を見たら助けてあげようと思います。

呉 侑怡 (中2)

People usually sit in a wheelchair because they have a disability to walk or move. But I sat in a wheelchair to learn how to help the people in a wheelchair. It was very fun and I learnt many things. It was like a roller coaster when I went down the slopes. I feel very proud of myself and I want to help those who have the disability.

Diya

(人々は歩いたり動いたりすることができないので車いすにすわります。わたしは車いすにすわって、車椅子のひとをどうやって助けるか、学びました。とてもおもしろくて、たくさんのことを学びました。坂道を下ったとき、ローラーコースターのようでした。自信がついて身体障害者の人をたすけたいとおもいました。ディア 中1)

People sit in a wheelchair who can not walk. I felt so happy that I was going help people. It was so fun when

climbing up the step and going down to slopes. I learnt to sit properly in a wheelchair.

Adithii

(人は歩けないので車いすにすわります。とてもおもしろくて、しょうがい者をたすけたいとおもいました。さかみちを上ったり下ったりするとき、おもしろかったです。わたしは車いすの正しいすわり方を学びました。アディティ 小5)



真剣に話を聞く子どもたち



上手に広げられるかな

トンガ王国の今

6月18日(土) 町田市民フォーラム4F第二学習室

JICA 青年海外協力隊の鶴岡聖末先生から、トンガ王国の現状についてお話をいただきました。

鶴岡先生は、トンガ二番目の島、ババウ島にある中学と高校で日本語教師として活動をされました。同校は JICA の資金で設立され、そこから JICA 隊員による様々な教育支援が行われています。トンガの人々は大変親日的で、日本語の学習にも熱心に取り組んでいます。

さて、先生が日本語を教えてこられたトンガという国はどのような所でしょうか？

トンガは南太平洋のポリネシアにあり、日本からの直行便は無く、ニュージーランドやオーストラリア・フィジー島経由でないと行けない、大変不便な所です。しかし、ヤシ、マンゴー・ココナツの実に恵まれた自然豊かな所だそうです。

そこの人々はたいへん太った人が多く、先生は華奢なので、周囲の人々は JICA の隊員は十分に食べられないのではないかと心配し、食料の差し入れが度々あり、幸せな時間を過ごすことができたということです。

JICA の活動は、東京オリンピック翌年の1965

年に始まり、昨年で50周年になりました。今後も鶴岡先生のような隊員による様々な活動をとおして、世界への貢献が続けられていくことでしょう。

国際理解部会 上田 徹



JICA 隊員のご苦勞とやりがいを感じました

国際協力のための公演会「ひとりではじめて海外支援 ～何もなくても何かはできる～」

6月25日(土) 町田市民フォーラム3F視聴覚室

東京科学少年応援計画代表の生地 陽さんを講師に招き、国際協力部会主催、国際協力のための公演会「ひとりではじめて海外支援～何もなくても何かはできる～」が開催されました。

生地 陽さんは現在ベトナムの子供たち約20名に奨学金を支給するなどの活動を中心に、海外支援活動をおこなっており、今回は、2008年に生地さんが海外の子供たちへの支援を思い立ち、何も無いところから、一人でベトナムとのパイプを作り、20名の子供たちに奨学金を支給するに至るまでの、苦勞や注意点、資金調達方法、活動の現状、今後の展望などを、スライドや動画を交えお話をいただきました。

今回ご参加いただいた31名のみなさま、大変興味深く生地さんのお話に耳を傾け、公演後の質疑応答では終了時間一杯までたくさんのご質問をいただきました。

今回の公演会は、「国際協力に興味はあるが、はたして自分になにができるのか？」などと考えていらっ

しゃる方々にとって、とても良いヒントとなったと思います。

国際協力部会 久住 博隆



小さなことでも行動に移していくことが大切です

町田第二中学校での国際理解授業はとても賑やかなものでした。

伺ったのは桜美林大学の留学生4人、マレーシア人のジェイソンさん。中国人の毛さん、袁さん、そして蘇さんです。4人とも流暢な日本語で自分の国の紹介をしました。

資料を使った説明では、食べ物や伝統衣装など、クイズ形式で生徒に問いかけ、生徒たちとコミュニケーションを取りながら進めました。また、中国の中学校は朝7時から授業が始まることや、お昼ご飯

は一度家に帰って食べること、午後二時までは昼寝の時間があることなど、日本とはかなり違うところがあり、生徒たちも興味津々でした。

マレーシアでは、主にマレー系、インド系、中華系の民族がいて、中華系のジェイソンさんは、家では中国語、街ではマレー語、学校では英語を使っていたそうです。日本では考えられないことに、生徒たちも驚いていました。最後はみんなで記念撮影、お互いにいい思い出になりました。

町田国際交流センター 小川 剛彦



マレーシアのジェイソンさん



中国の袁さんと蘇さん

5月～7月まで日本語教室の託児ボランティアをしていただいた、大学生の感想を紹介します。

託児ボランティアの感想

短い間でしたが、ありがとうございました。昔から小さい子どもと接するのが苦手だったのであまり好きじゃなかったのですが、毎週通って子どもたちと遊んで最後には少し寂しくなるくらい可愛くて仕方がなかったです。ボランティアの皆さんも本当に優しく、色々お話しするのが楽しかったです。

これから、もっと色々な国にルーツを持つ子どもたちが生まれてくるんだろうなって考えさせられました。

毎週の癒しの時間でした。本当に楽しかったです。また時間があるときに遊びに行くかもしれません。これからも、活動頑張ってください。ありがとうございました。

桜美林大学 リベラルアーツ学群 3年 木村 さおり

今回在日外国人の託児の世話をするという貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。初めに学校での説明を受けたとき、子供の世話をするという簡単なものだと思っていましたが、実際やってみるとイメージと全く異なるものでした。

まず、子供が幼稚園にいらっていると思っていましたが全然そんなことなく、当初はかなり扱いづらいなという印象でした。急に泣いたり遊びに気を引けたかと思ったら、すぐにどっか行ってしまおうので、ボランティアしたてのころは常に気を張っておくという状態でした。

しかし、次第に慣れてゆき、無邪気に喜んでくれる子供たちの笑顔で元気ももらえました。自分としては子供というもののおもしろさ、難しさとして日本になじみながらその子供たちの世話をする在日外国人が、いかに大変なのかということをおしえて頂きました。最後までお力になれたかわかりませんが、約2ヶ月の間お世話になりました。本当にありがとうございました。

桜美林大学 リベラルアーツ学群 2年 瀧澤 直広

まちだ市民大学HATS「まちだdeエコライフ」公開講座
**「地球と農業－TPP・気候変動・生物多様性
 国連の新目標 (SDGs) の動向から－」**

発展途上国での急激な人口増加により、地球規模での食糧危機が懸念されています。近年の経済の枠組みや地球環境保護のため国連が新たに示した今後15年間の持続可能な開発目標の動向を踏まえ、地球と農業をテーマに國學院大學教授の古沢広祐先生にお話しいただきます。

- 【講師】 古沢 広祐 氏
 【日時】 10月15日(土) 10:00～12:00 (9:30開場)
 【会場】 町田市生涯学習センター 7F ホール
 (町田市原町田 6-8-1)
 【対象】 どなたでも
 【定員】 100名(申込順)
 【費用】 無料
 【申込】 9月13日(火) 正午から町田市イベントダイヤル
 (042-724-5656) で受付開始。
 ※9月11日号広報まちだに掲載予定
 【問い合わせ】 町田市生涯学習センター TEL 042-728-0071



その他の活動 [7月]

- 29日(金)～31日(日) ホームステイ アメリカ ノースイースタン大学留学生受け入れ
 31日(日) ホームビジット 韓国 明知大学留学生受け入れ
 24日(日) 懇談会 写真とともに語る外国人の思い
 27日(水) 世界の食卓～中国料理教室～



中国の家庭料理▶



ホームページをご覧ください!!

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい!!

町田国際交流センターのホームページでは、センターが主催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用下さい。

(財)町田市文化・国際交流財団
 町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
 TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>
 E-mail:info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集

秋祭りに参加しませんか 山車巡行！

町田天満宮秋季例大祭に原町田六生会の子ども山車で巡行に参加します。

- 日 時：9月25日(日) 13:00～15:00
- 対象：外国人の親子(小学生以下の子どもと保護者)
- 定員：30組
- 参加費：無料
- 集合場所：町田国際交流センター
- 集合時間：12:00～ ※受付時にハッピーとタスキを渡します。
- 申込：住所、氏名、お子様の名前と年齢・身長をお書きの上、電話、FAX、ハガキでお申込下さい。9月21日(水)まで。
- お問合せ：(財)町田市文化・国際交流財団 町田国際交流センター
TEL：042-722-4260 FAX：042-722-5330



町田国際交流センター懇談会

あなたの買い物で世界を変えよう “フェアトレード” ってなんだろう

フェアトレードとは、開発途上国の農業や小規模生産者・女性など弱い立場の人々に対して、公平な貿易を行うことで経済的な自立を支援することです。例えば、私たちが安く商品を買う裏側には、学校に行けずに働いている子どもたちや、貧しさに苦しむ人々が多くいます。私たちの身近な買い物で、そうした状況を変えることができます。こんなフェアトレードの意義や役割について、一緒に考えてみませんか。

- 日 時：10月8日(土) 13:30～15:30
- 会場：町田市民フォーラム 4階 第2学習室
- 参加費：無料
- 講師：(一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー 松本 義弘 氏
- 申込：住所、氏名、参加人数と電話番号をご記入下さい。受付確認のお知らせはお送り致しません。直接会場へお越し下さい。
★はがき(宛先)：〒194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4階 町田国際交流センター「フェアトレード」宛
★ホームページから：「お問い合わせ欄」より、件名を「フェアトレード」としてお申込み下さい。
★FAX：042-722-5330 へお送り下さい。
- 主催：(財)町田市文化・国際交流財団 町田国際交流センター TEL：042-722-4260 (担当：国際理解部会)



予告 第14回 留学生トークプラザ 留学生の思いを聞いてみませんか

留学生から出された「市民との交流の場が欲しい」との要望から始まった「留学生トークプラザ」は今年、第14回を迎えました。毎回、留学生たちのすばらしい日本語と、異なる視点からの鋭い観察と主張に驚かされます。今年も地域の大学で勉強している留学生たちに、日本の印象や、将来の夢などを日本語で発表して頂きます。

- 開催日時：11月20日(日) 14:00～17:00 (開場13:30)
- 会場：町田市立中央図書館 6Fホール

